

(案)

ピラクロニル 農薬蜜蜂影響評価書

2026年9月10日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要.....	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状.....	4
3. 申請に係る情報.....	4
4. 作用機作.....	4
5. 登録状況.....	5
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	15
1. ミツバチに対する安全性に係る試験.....	15
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	16
3. 花粉・花蜜残留試験.....	17
4. 蜂群への影響試験.....	17
III. 毒性指標.....	18
1. 毒性試験の結果概要.....	18
2. 毒性指標値.....	18
3. 毒性の強さから付される注意事項.....	18
IV. 暴露量の推計	18
V. 評価結果.....	19
評価資料	19
評価資料（公表文献）	19

<経緯>

令和 8 年（2026年） 5 月 7 日 農業資材審議会への諮問

令和 8 年（2026年） 9 月 1 0 日 農業資材審議会農薬蜜蜂影響評価部会
（第22回）

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第 22 回）

（委員）

五箇 公一

山本 幸洋

（臨時委員）

横井 智之

（専門委員）

永井 孝志

中村 佳子

並木 小百合

ピラクロニル

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1 申請者 協友アグリ株式会社

1.2 登録名 ピラクロニル
1-(3-クロロ-4,5,6,7-テトラヒドロピラゾロ[1,5-a]ピリジン-2-イル)-5-[メチル(プロピ-2-ニル)アミノ]ピラゾール-4-カルボニトリル

1.3 一般名 pyraclonil (ISO)

1.4 化学名

IUPAC名 : 1-(3-chloro-4,5,6,7-tetrahydropyrazolo[1,5-a]pyridin-2-yl)-5-[methyl(prop-2-ynyl)amino]pyrazole-4-carbonitrile

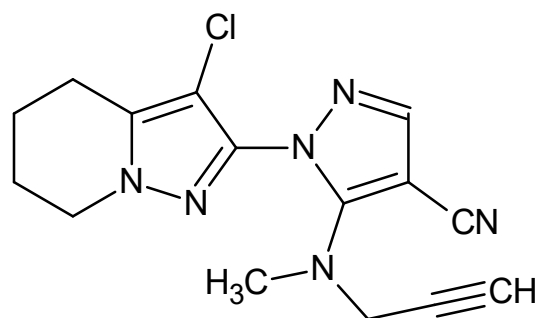
CAS名 : 1-(3-chloro-4,5,6,7-tetrahydropyrazolo[1,5-a]pyridin-2-yl)-5-(methyl-2-propynylamino)-1H-pyrazole-4-carbonitrile
(CAS No. 158353-15-2)

1.5 コード番号 ZK 172391、SN 172391、AE B172391

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式 $C_{15}H_{15}ClN_6$

構造式



分子量 314.78

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果
色調・形状			99.73	官能法	白色粉末
臭気			99.73	官能法	無臭
密度			99.73	OECD 109	1.325 g/cm ³ (20 °C)
蒸気圧			99.5	OECD 104	1.9×10 ⁻⁷ Pa (25 °C)
溶解度	水		99.7	OECD 105	50.1 mg/L (20 °C)
	有機溶媒	アセトン	99.7	OECD 105	>500 g/L (20 °C)
解離定数 (pK _a)			99.7	OECD 112	測定不能(解離せず)
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})			99.5	OECD 117	2.18
加水分解性			99.7	OECD 111	安定 (50±0.5 °C、5 日間、pH 4、7 及び 9)
水中光分解性			≧97及び ≧98	12農産第8147号	半減期 320 日 (滅菌緩衝液、pH7、25±1 °C、120~200 W/m ² 、290~800 nm)
試験項目			試験方法		試験結果
土壌吸着係数			OECD 106		K ^{ads} _{Foc} : 161 (1種類の国内土壌) K ^{ads} _{Foc} : 178~362 (4種類の海外土壌)
土壌残留性			記載なし		粒剤、水田土壌 火山灰・軽埴土：半減期0.2日 (土壌の深さ0~10 cm、DFOPモデルによる推定値) 洪積・埴壤土：半減期4.4日 (土壌の深さ0~10 cm、DFOPモデルによる推定値)

3. 申請に係る情報

ピラクロニルは、2024 年 12 月時点で、米国、韓国、中国及びタイで登録されている。

4. 作用機作

ピラクロニルはピラゾリルピラゾール環を有し、光の存在下でプロトポルフィリノーゲン-IXオキシダーゼ（PPO）活性阻害を示すことにより、対象雑草の茎葉部に褐変や乾燥を引き起こし枯死に至らしめる。

(HRAC 分類：14[※])

※参照：<https://www.hracglobal.com/>

5. 登録状況

5.1 申請農薬

147製剤

- ・ピラクロン 1 キロ粒剤
(ピラクロニル1.8 %粒剤)
- ・ピラクロンフロアブル
(ピラクロニル3.6 %水和剤)
- ・ピラクロショットフロアブル
(クミルロン20.0 %・ピラクロニル3.6 %水和剤)
- ・イネキング 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・ピラゾレート10.0 %・ベンゾビシクロン2.0 %
粒剤)
- ・サンシャインジャンボ
(ピラクロニル6.6 %・ベンゾビシクロン6.7 %粒剤)
- ・サンシャイン 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・ベンゾビシクロン2.0 %粒剤)
- ・ピラクロショット 1 キロ粒剤
(クミルロン12.0 %・ピラクロニル1.8 %粒剤)
- ・日農イッポン 1 キロ粒剤 7 5
(ピラクロニル2.0 %・ブロモブチド9.0 %・ベンスルフロンメチル
0.75 %粒剤)
- ・日農イッポンフロアブル
(ピラクロニル4.0 %・ブロモブチド18.0 %・ベンスルフロンメチル
1.4 %水和剤)
- ・バッチリ 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90 %・ピラクロニル2.0 %・ブロモブチド9.0 %
粒剤)
- ・バッチリフロアブル
(イマゾスルフロン1.7 %・ピラクロニル3.7 %・ブロモブチド16.3 %
水和剤)
- ・兆フロアブル
(ピラクロニル3.6 %水和剤)
- ・兆 1 キロ粒剤
(ピラクロニル1.8 %粒剤)
- ・イネキングジャンボ
(ピラクロニル4.0 %・ピラゾレート20.0 %・ベンゾビシクロン4.0 %
粒剤)
- ・サンシャインフロアブル
(ピラクロニル3.9 %・ベンゾビシクロン3.9 %水和剤)
- ・イネキングフロアブル
(ピラクロニル3.6 %・ピラゾレート20.0 %・ベンゾビシクロン4.0 %
水和剤)
- ・バッチリジャンボ
(イマゾスルフロン2.25 %・ピラクロニル5.0 %・ブロモブチド22.5 %
粒剤)

- ・日農イッポンジャンボ
(ピラクロニル4.0 %・ブロモブチド18.0 %・ベンズスルフロニメチル1.5 %粒剤)
- ・日農イッポンD 1 キロ粒剤 5 1
(ダイムロン4.0 %・ピラクロニル2.0 %・ブロモブチド6.0 %・ベンズスルフロニメチル0.51 %粒剤)
- ・忍 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロニ0.90 %・ピラクロニル2.0 %・ベンゾビシクロニ2.0 %粒剤)
- ・忍フロアブル
(イマゾスルフロニ1.8 %・ピラクロニル3.9 %・ベンゾビシクロニ3.9 %水和剤)
- ・忍ジャンボ
(イマゾスルフロニ4.5 %・ピラクロニル10.0 %・ベンゾビシクロニ10.0 %粒剤)
- ・メガゼータジャンボ
(ピラクロニル5.0 %・プロピリスルフロニ2.25 %粒剤)
- ・メガゼータフロアブル
(ピラクロニル3.9 %・プロピリスルフロニ1.7 %水和剤)
- ・メガゼータ 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・プロピリスルフロニ0.90 %粒剤)
- ・シリウスエグザ 1 キロ粒剤
(オキサジクロメホン0.40 %・ピラクロニル2.0 %・ピラゾスルフロニエチル0.30 %・ベンゾビシクロニ2.0 %粒剤)
- ・シリウスエグザジャンボ
(オキサジクロメホン1.4 %・ピラクロニル6.6 %・ピラゾスルフロニエチル1.0 %・ベンゾビシクロニ6.7 %粒剤)
- ・サラブレットK A I フロアブル
(イマゾスルフロニ1.7 %・オキサジクロメホン0.57 %・ピラクロニル3.8 %水和剤)
- ・サラブレットK A I 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロニ0.90 %・オキサジクロメホン0.40 %・ピラクロニル2.0 %粒剤)
- ・ライジンパワー 1 キロ粒剤
(インダノファン1.2 %・ピラクロニル1.5 %・ベンゾビシクロニ3.0 %粒剤)
- ・S D S ライジンパワー 1 キロ粒剤
(インダノファン1.2 %・ピラクロニル1.5 %・ベンゾビシクロニ3.0 %粒剤)
- ・センイチMX 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・フルセトスルフロニ0.20 %・メソトリオン0.90 %粒剤)
- ・コメット 1 キロ粒剤
(テフリルトリオン2.0 %・ピラクロニル2.0 %・メタゾスルフロニ0.60 %粒剤)

- ・ コメットジャンボ
(テフリルトリオン6.7 %・ピラクロニル6.6 %・メタゾスルフロン2.0 %粒剤)
- ・ コメット顆粒
(テフリルトリオン25.0 %・ピラクロニル25.0 %・メタゾスルフロン7.5 %水和剤)
- ・ 銀河 1 キロ粒剤
(ダイムロン10.0 %・ピラクロニル2.0 %・メタゾスルフロン1.0 %粒剤)
- ・ 銀河ジャンボ
(ダイムロン25.0 %・ピラクロニル5.0 %・メタゾスルフロン2.5 %粒剤)
- ・ サラブレッドK A I ジャンボ
(イマゾスルフロン2.25 %・オキサジクロメホン0.75 %・ピラクロニル5.0 %粒剤)
- ・ 銀河フロアブル
(ダイムロン20.0 %・ピラクロニル4.0 %・メタゾスルフロン2.0 %水和剤)
- ・ ライジンパワージャンボ
(インダノファン2.4 %・ピラクロニル3.0 %・ベンゾビシクロン6.0 %粒剤)
- ・ S D S ライジンパワージャンボ
(インダノファン2.4 %・ピラクロニル3.0 %・ベンゾビシクロン6.0 %粒剤)
- ・ カットダウン 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90 %・ピラクロニル2.0 %粒剤)
- ・ フルパワーMX 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・フルセトスルフロン0.20 %・メソトリオン0.90 %粒剤)
- ・ コメットフロアブル
(テフリルトリオン4.0 %・ピラクロニル4.0 %・メタゾスルフロン1.2 %水和剤)
- ・ バッチリ L X フロアブル
(イマゾスルフロン1.7 %・オキサジクロメホン0.56 %・ピラクロニル3.7 %・ブロモブチド16.3 %水和剤)
- ・ バッチリ L X ジャンボ
(イマゾスルフロン2.25 %・オキサジクロメホン0.75 %・ピラクロニル5.0 %・ブロモブチド22.5 %粒剤)
- ・ バッチリ L X 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90 %・オキサジクロメホン0.40 %・ピラクロニル2.0 %・ブロモブチド9.0 %粒剤)
- ・ ヤブサメ豆つぶ 2 5 0
(ピラクロニル6.0 %・ピリミスルフアン2.0 %・フェノキサスルホン6.0 %剤)

- ・クサバルカン 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・ピラゾレート10.0 %・ベンゾビシクロン2.0 %
粒剤)
- ・クサバルカンジャンボ
(ピラクロニル4.0 %・ピラゾレート20.0 %・ベンゾビシクロン4.0 %
粒剤)
- ・クサバルカンフロアブル
(ピラクロニル3.6 %・ピラゾレート20.0 %・ベンゾビシクロン4.0 %
水和剤)
- ・ゲパード 1 キロ粒剤
(ダイムロン10.0 %・ピラクロニル2.0 %・ベンゾビシクロン2.0 %・
メタゾスルフロン1.2 %粒剤)
- ・デルタアタックフロアブル
(イマゾスルフロン1.7 %・オキサジクロメホン0.56 %・ピラクロニ
ル3.7 %・ブロモブチド16.3 %水和剤)
- ・デルタアタックジャンボ
(イマゾスルフロン2.25 %・オキサジクロメホン0.75 %・ピラクロニ
ル5.0 %・ブロモブチド22.5 %粒剤)
- ・デルタアタック 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90 %・オキサジクロメホン0.40 %・ピラクロニ
ル2.0 %・ブロモブチド9.0 %粒剤)
- ・アッパレ Z 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・プロピリスルフロン0.90 %・ブロモブチド
9.0 %粒剤)
- ・アッパレ Z ジャンボ
(ピラクロニル5.0 %・プロピリスルフロン2.25 %・ブロモブチド
22.5 %粒剤)
- ・ピラクロンジャンボ
(ピラクロニル6.0 %粒剤)
- ・兆ジャンボ
(ピラクロニル6.0 %粒剤)
- ・センイチMXジャンボ
(ピラクロニル4.0 %・フルセトスルフロン0.40 %・メソトリオン
1.8 %粒剤)
- ・フルパワーMXジャンボ
(ピラクロニル4.0 %・フルセトスルフロン0.40 %・メソトリオン
1.8 %粒剤)
- ・タンボパワージャンボ
(ピラクロニル4.0 %・フルセトスルフロン0.40 %・メソトリオン
1.8 %粒剤)
- ・タンボパワー 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・フルセトスルフロン0.20 %・メソトリオン
0.90 %粒剤)
- ・アッパレ Z フロアブル
(ピラクロニル3.7 %・プロピリスルフロン1.7 %・ブロモブチド
16.8 %水和剤)

- ・ジェイフレンド1キロ粒剤
(オキサジクロメホン0.30 %・テフリルトリオン3.0 %・ピラクロニル2.0 %粒剤)
- ・ジェイフレンドフロアブル
(オキサジクロメホン0.57 %・テフリルトリオン5.7 %・ピラクロニル3.8 %水和剤)
- ・ジェイフレンドジャンボ
(オキサジクロメホン0.75 %・テフリルトリオン7.5 %・ピラクロニル5.0 %粒剤)
- ・ゲパードジャンボ
(ダイムロン25.0 %・ピラクロニル5.0 %・ベンゾビシクロン5.0 %・メタゾスルフロン3.0 %粒剤)
- ・エンペラー1キロ粒剤
(ピラクロニル2.0 %・ピリミノバックメチル0.75 %・フェンキノトリオン3.0 %粒剤)
- ・エンペラー豆つぶ250
(ピラクロニル8.0 %・ピリミノバックメチル3.0 %・フェンキノトリオン12.0 %剤)
- ・エンペラージャンボ
(ピラクロニル8.0 %・ピリミノバックメチル3.0 %・フェンキノトリオン12.0 %剤)
- ・アシュラフロアブル
(トリアファモン0.96 %・ピラクロニル3.8 %・ベンゾビシクロン3.8 %水和剤)
- ・エンペラーフロアブル
(ピラクロニル3.7 %・ピリミノバックメチル1.4 %・フェンキノトリオン5.6 %水和剤)
- ・バッチリ400FG
(イマゾスルフロン2.25 %・ピラクロニル5.0 %・ブロモブチド22.5 %粒剤)
- ・ゲパードエアー粒剤
(ダイムロン25.0 %・ピラクロニル5.0 %・ベンゾビシクロン5.0 %・メタゾスルフロン3.0 %粒剤)
- ・メガゼータ400FG
(ピラクロニル5.0 %・プロピリスルフロン2.25 %粒剤)
- ・バッチリLX400FG
(イマゾスルフロン2.25 %・オキサジクロメホン0.75 %・ピラクロニル5.0 %・ブロモブチド22.5 %粒剤)
- ・デルタアタック400FG
(イマゾスルフロン2.25 %・オキサジクロメホン0.75 %・ピラクロニル5.0 %・ブロモブチド22.5 %粒剤)
- ・アッパレZ400FG
(ピラクロニル5.0 %・プロピリスルフロン2.25 %・ブロモブチド22.5 %粒剤)

- ・アシュラジャンボ
(トリアファモン1.25 %・ピラクロニル5.0 %・ベンゾビシクロン
5.0 %粒剤)
- ・アシュラ 4 0 0 F G
(トリアファモン1.25 %・ピラクロニル5.0 %・ベンゾビシクロン
5.0 %粒剤)
- ・アシュラ 1 キロ粒剤
(トリアファモン0.50 %・ピラクロニル2.0 %・ベンゾビシクロン
2.0 %粒剤)
- ・アットウ Z ジャンボ
(テフリルトリオン5.0 %・ピラクロニル5.0 %・プロピリスルフロン
2.25 %粒剤)
- ・アットウ Z 4 0 0 F G
(テフリルトリオン5.0 %・ピラクロニル5.0 %・プロピリスルフロン
2.25 %粒剤)
- ・アットウ Z 1 キロ粒剤
(テフリルトリオン2.0 %・ピラクロニル2.0 %・プロピリスルフロン
0.90 %粒剤)
- ・アットウ Z フロアブル
(テフリルトリオン3.8 %・ピラクロニル3.8 %・プロピリスルフロン
1.7 %水和剤)
- ・キラリ 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90 %・テフリルトリオン2.0 %・ピラクロニル
2.0 %粒剤)
- ・フルパワーMX 5 0 0 グラム F G
(ピラクロニル4.0 %・フルセトスルフロン0.40 %・メソトリオン
1.8 %粒剤)
- ・ジェイフrend 4 0 0 F G
(オキサジクロメホン0.75 %・テフリルトリオン7.5 %・ピラクロニ
ル5.0 %粒剤)
- ・サラブレッドK A I 4 0 0 F G
(イマゾスルフロン2.25 %・オキサジクロメホン0.75 %・ピラクロニ
ル5.0 %粒剤)
- ・パピリカ 1 キロ粒剤
(テニルクロール2.0 %・ピラクロニル2.0 %・ベンゾビシクロン3.0 %
粒剤)
- ・キラリフロアブル
(イマゾスルフロン1.7 %・テフリルトリオン3.8 %・ピラクロニル
3.8 %水和剤)
- ・キラリジャンボ
(イマゾスルフロン2.25 %・テフリルトリオン5.0 %・ピラクロニル
5.0 %粒剤)
- ・キラリ 4 0 0 F G
(イマゾスルフロン2.25 %・テフリルトリオン5.0 %・ピラクロニル
5.0 %粒剤)

- ・バットウZフロアブル
(ピラクロニル3.8%・プロピリスルフロロン1.7%・ベンゾビシクロン3.8%水和剤)
- ・バットウZ 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0%・プロピリスルフロロン0.90%・ベンゾビシクロン2.0%粒剤)
- ・バットウZ ジャンボ
(ピラクロニル5.0%・プロピリスルフロロン2.25%・ベンゾビシクロン5.0%粒剤)
- ・ピリカムイZフロアブル
(ピラクロニル3.7%・フェンキノトリオン5.6%・プロピリスルフロロン1.7%水和剤)
- ・サラブレットGO 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロロン0.90%・オキサジクロメホン0.60%・ピラクロニル1.0%・ブロモブチド9.0%粒剤)
- ・サラブレットGO 4 0 0 F G
(イマゾスルフロロン2.25%・オキサジクロメホン1.5%・ピラクロニル2.5%・ブロモブチド22.5%粒剤)
- ・サラブレットGO ジャンボ
(イマゾスルフロロン2.25%・オキサジクロメホン1.5%・ピラクロニル2.5%・ブロモブチド22.5%粒剤)
- ・サラブレットGOフロアブル
(イマゾスルフロロン1.7%・オキサジクロメホン1.1%・ピラクロニル1.9%・ブロモブチド16.7%水和剤)
- ・ピラクロン 3 0 0 F G
(ピラクロニル6.0%粒剤)
- ・先陣ジャンボ
(ジメタメトリン1.5%・ピラクロニル7.5%粒剤)
- ・先陣 2 0 0 F G
(ジメタメトリン1.5%・ピラクロニル7.5%粒剤)
- ・カラット 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロロン0.90%・テフリルトリオン2.0%・ピラクロニル2.0%粒剤)
- ・カラットフロアブル
(イマゾスルフロロン1.7%・テフリルトリオン3.8%・ピラクロニル3.8%水和剤)
- ・カラットジャンボ
(イマゾスルフロロン2.25%・テフリルトリオン5.0%・ピラクロニル5.0%粒剤)
- ・カラット 4 0 0 F G
(イマゾスルフロロン2.25%・テフリルトリオン5.0%・ピラクロニル5.0%粒剤)
- ・ギガゼータ 1 キロ粒剤
(ピラクロニル2.0%・フェンキノトリオン3.0%・プロピリスルフロロン0.90%・ブロモブチド9.0%粒剤)

- ・ギガゼータフロアブル
(ピラクロニル3.7%・フェンキノトリオン5.5%・プロピリスルフロ
ン1.7%・ブロモブチド16.5%水和剤)
- ・テッシン1キロ粒剤
(ピラクロニル2.0%・フェンキノトリオン3.0%・ベンスルフロ
ンメチル0.75%粒剤)
- ・テッシンフロアブル
(ピラクロニル3.7%・フェンキノトリオン5.6%・ベンスルフロ
ンメチル1.4%水和剤)
- ・先陣1キロ粒剤
(ジメタメトリン0.30%・ピラクロニル1.5%粒剤)
- ・ヒッサツ1キロ粒剤
(イマゾスルフロ
ン0.90%・ピラクロニル2.0%・ブロモブチド15.0%
粒剤)
- ・ヒッサツ400FG
(イマゾスルフロ
ン2.3%・ピラクロニル5.0%・ブロモブチド37.5%
粒剤)
- ・ヒッサツジャンボ
(イマゾスルフロ
ン2.3%・ピラクロニル5.0%・ブロモブチド37.5%
粒剤)
- ・ヒッサツフロアブル
(イマゾスルフロ
ン1.6%・ピラクロニル3.6%・ブロモブチド27.0%
水和剤)
- ・テッシン豆つぶ250
(ピラクロニル8.0%・フェンキノトリオン12.0%・ベンスルフロ
ンメチル3.0%剤)
- ・テッシンジャンボ
(ピラクロニル8.0%・フェンキノトリオン12.0%・ベンスルフロ
ンメチル3.0%剤)
- ・オイカゼZ250FG
(ピラクロニル8.0%・プロピリスルフロ
ン3.6%粒剤)
- ・イツザイ1キロ粒剤
(イマゾスルフロ
ン0.90%・オキサジクロメホン0.30%・テフリルト
リオン2.5%・ピラクロニル2.0%粒剤)
- ・イツザイフロアブル
(イマゾスルフロ
ン1.7%・オキサジクロメホン0.57%・テフリルト
リオン4.7%・ピラクロニル3.8%水和剤)
- ・イツザイジャンボ
(イマゾスルフロ
ン4.5%・オキサジクロメホン1.5%・テフリルト
リオン12.5%・ピラクロニル10.0%粒剤)
- ・イツザイ200FG
(イマゾスルフロ
ン4.5%・オキサジクロメホン1.5%・テフリルト
リオン12.5%・ピラクロニル10.0%粒剤)
- ・オイカゼZ1キロ粒剤
(ピラクロニル2.0%・プロピリスルフロ
ン0.90%粒剤)

- ・オйкаゼZフロアブル
(ピラクロニル3.9%・プロピリスルフロンの水和剤)
- ・オйкаゼZジャンボ
(ピラクロニル5.0%・プロピリスルフロンの2.25%粒剤)
- ・ゼアス1キロ粒剤
(オキサジクロメホン0.40%・ジメスルファゼット1.5%・ピラクロニル2.0%粒剤)
- ・ゼアスジャンボ
(オキサジクロメホン1.3%・ジメスルファゼット5.0%・ピラクロニル6.6%粒剤)
- ・ゼアスエアー粒剤
(オキサジクロメホン1.3%・ジメスルファゼット5.0%・ピラクロニル6.6%粒剤)
- ・ゼアスフロアブル
(オキサジクロメホン0.80%・ジメスルファゼット3.0%・ピラクロニル4.0%水和剤)
- ・銀河α1キロ粒剤
(ジメスルファゼット1.5%・ピラクロニル2.0%・メタゾスルフロンの1.0%粒剤)
- ・銀河αジャンボ
(ジメスルファゼット3.75%・ピラクロニル5.0%・メタゾスルフロンの2.5%粒剤)
- ・銀河αエアー粒剤
(ジメスルファゼット3.75%・ピラクロニル5.0%・メタゾスルフロンの2.5%粒剤)
- ・銀河αフロアブル
(ジメスルファゼット3.0%・ピラクロニル4.0%・メタゾスルフロンの2.0%水和剤)
- ・センメツZフロアブル
(ジメスルファゼット2.9%・ピラクロニル3.8%・プロピリスルフロンの1.7%水和剤)
- ・センメツZ1キロ粒剤
(ジメスルファゼット1.5%・ピラクロニル2.0%・プロピリスルフロンの0.90%粒剤)
- ・センメツZジャンボ
(ジメスルファゼット7.5%・ピラクロニル10.0%・プロピリスルフロンの4.5%粒剤)
- ・センメツZ200FG
(ジメスルファゼット7.5%・ピラクロニル10.0%・プロピリスルフロンの4.5%粒剤)
- ・ゼアス顆粒
(オキサジクロメホン6.7%・ジメスルファゼット25.0%・ピラクロニル33.3%水和剤)
- ・イネクイーン1キロ粒剤
(シクロピリモレート3.0%・ピラクロニル2.0%・ピラゾレート9.0%粒剤)

- ・サンキング 1 キロ粒剤
(シクロピリモレート3.0 %・ピラクロニル2.0 %・ピラゾレート9.0 %
粒剤)
- ・イネクイーンジャンボ
(シクロピリモレート6.6 %・ピラクロニル4.4 %・ピラゾレート
20.0 %粒剤)
- ・サンキングジャンボ
(シクロピリモレート6.6 %・ピラクロニル4.4 %・ピラゾレート
20.0 %粒剤)
- ・イネクイーンフロアブル
(シクロピリモレート5.5 %・ピラクロニル3.6 %・ピラゾレート
16.4 %水和剤)
- ・サンキングフロアブル
(シクロピリモレート5.5 %・ピラクロニル3.6 %・ピラゾレート
16.4 %水和剤)

5.2	適用作物	移植水稻、直播水稻
5.3	使用方法	湛水散布、無人航空機による散布等

II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

ピラクロニルのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		0	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

*（参考）公表文献の検索結果

（生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野）（資料3）

データベース名： ①Web of Science Core Collection、MEDLINE等5つのデータベース

②J-STAGE

検索対象期間： ①2009年10月1日から2024年9月30日

②2009年10月1日から2024年9月30日

「生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野」に該当する文献数	①	②
	19	48



【表題と概要に基づく適合性の有無の評価】

明らかに評価の目的と適合しない文献の除外

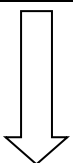
「適合性なし」以外の文献数	①	②
	3	2



【全文に基づく適合性の有無の評価】

評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性あり」の文献数	①	②
	3	0



【適合性の分類】

分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性を

a、b、cの3つの区分に分類

区分a；リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献

区分b；リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献

区分c；a又はbに分類されない文献

「区分a～c」に分類された文献数	①		
	a	b	c
	0	1	2



試験生物として「セイヨウミツバチ（*Apis mellifera*）」を用いている

審議の対象とする文献数	0
-------------	---

※国際機関や欧米の評価機関の評価書に引用されている文献の中にミツバチに関する文献はなかった。

※公表文献に関する情報募集（令和8年3月20日～4月18日）で寄せられた情報はない。

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >100 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、1997 年）

被験物質	原体			
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i> L.) / 5反復、10頭/区			
準拠ガイドライン	EPPO 170、EPA Guidelines No.141-1			
試験期間	72 h			
投与溶媒(投与液量)	アセトン(1 µL)			
暴露量 (設定量に基づく有効 成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	1.0	10.0	100
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0 %)	0/50	0/50	0/50
観察された行動異常	本試験では行動異常を観察の対象としていない			
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>100			

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >44 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 2、2012 年）

被験物質	原体				
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 2または3反復、10頭/区				
準拠ガイドライン	OECD TG213、EPPO 170				
試験期間	48 h				
投与溶液(投与液量)	50 %シヨ糖溶液(200 µL/区)				
助剤(濃度%)	アセトン(5 %)				
暴露量 (摂餌量に基づく有効 成分換算値)(µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	0.73	3.7	44
死亡数/供試生物数 (48 h)	2/30 (6.7 %)	1/30 (3.3 %)	1/20	1/20	0/30
観察された行動異常	なし				
LD ₅₀ (µg ai/bee)(48 h)	>44				

2.3 成虫反復経口毒性試験

該当なし

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

III. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 4 に示す。

表 4：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エントポイント	試験
成虫単回接触毒性	48h LD ₅₀ (μg ai/bee)	>100
成虫単回経口毒性	48h LD ₅₀ (μg ai/bee)	>44

2. 毒性指標値

ピラクロニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値は以下のとおりとした(表 5)。

(1) 成虫単回接触毒性

48h LD₅₀ 値 (>100 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 μg ai/bee とした。

(2) 成虫単回経口毒性

48h LD₅₀ 値 (>44 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 44 μg ai/bee とした。

表 5：ピラクロニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48h LD ₅₀ (μg ai/bee)	100
	単回経口毒性	48h LD ₅₀ (μg ai/bee)	44

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 μg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

IV. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫単回接触毒性の毒性値 (LD₅₀ 値) が 11 μg/bee 以上であること、及び成虫単回接触毒性以外の毒性値が超値 (成虫単回経口毒性試験 LD₅₀ : >44 μg/bee) であることから、1 巡目の再評価において、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

V. 評価結果

ピラクロニルは、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料 番号	報告年	題名、出典(試験施設以外の場合) 試験施設、報告書番号 GLP適合状況(必要な場合)、公表の有無
1	1997	Code: AE B172391 00 1C99 0002 Substance technical 100%w/w Contact toxicity (LD 50) to honey bees (<i>Apis mellifera</i> L.) Hoechst Schering AgrEvo GmbH Report No.: CW97/076 GLP、未公表
2	2012	Pyraclonil Technical - Acute Oral Toxicity Test with the Honey Bee (<i>Apis mellifera</i>) Following EPPO Guideline 170 (2000) and OECD Guideline 213 Report No.: 14021.6103 GLP、未公表
3	2025	農薬取締法に基づく農薬有効成分の再評価制度に係る公表文献調査報告書 有効成分名：ピラクロニル 公表

評価資料（公表文献）

該当なし